

西洋建築史第2回

古代1 - オリエント世界の建築

中島 智章

序.土の建築と石の建築

日乾煉瓦建築(メソポタミア建築、エジプト世俗建築)と石造建築(エジプト宗教建築、エーゲ海建築、希建築)

木造建築 木材は希少 レバノン杉など エジプトでは家具の材料として貴重な輸入材

1.古代メソポタミア建築

都市国家 世界帝国：シュメール人(ウルなど) アッカド人 バビロニア王国 ヒッタイトなど アッシリア
新バビロニア王国・メディア王国・リディア王国(クロイソス) アケメネス朝ペルシア アレクサンドロス大王
宮殿建築 サルゴン2世宮殿(ア)、バビロン市門(新バ)、ペルセポリスの宮殿跡・百柱の間(ペ)
宗教建築 ジッグラト(バベルの塔) エジプト建築への影響…「王宮ファサード」とよばれる凹凸周壁

2.古代エジプト建築

先王朝時代、初期王朝時代、古王国、第1中間期、中王国、第2中間期、新王国、第3中間期、末期王朝時代
貴族墳墓(マスタバ) ネテリクヘト(ジェセル)王のサッカラ葬祭建築複合体=階段ピラミッド(イムヘテブ)
スネフェル王のピラミッド群(メイドゥムのピラミッド、屈折ピラミッド、赤ピラミッド=四角錐形の確立)
ギザの三大ピラミッド(クフ、カフラー、メンカウラー)=構造の変化、用途は不明(公共事業説もあり)
神殿建築 パイロン(塔門)、中庭、多柱室、至聖所 奥へと狭まる、植物に想を得た柱、ヒエログリフ(聖刻文字)
ハトシェプスト女王葬祭殿、カルナック神殿、ルクソール神殿、ラムセウム(ラムセス2世)、アブシンベル神殿
プトレマイオス朝、属州時代へ継承=デンデラ・ハトホル神殿、エドフ・ホルス神殿、フィラエ・イシス神殿
宮殿建築 世俗建築は日乾煉瓦 第18王朝アメンヘテブ3世のマルカタ王宮 寝室天井画に眞実の女神

3.古代ギリシア建築

クレタ文明の遺したクノッソス宮殿(用途は不明) 長野宇平治設計の大倉山記念館(大倉精神文化研究所)
ミュケナイ(ミケーネ)文明 メガロン=四本柱で支えられた炉を持つ主室+前室+前廊
神殿建築 アクロポリス(神域)=神殿建築複合体 木造建築に由来するといわれる円柱
アルカイック期の神殿 太いドリス式円柱(正面の柱数が奇数の場合も パエストゥウムのヘラ第1神殿)
古典(ヘレニック)期の神殿 ドリス式(アテナイのパルテノン神殿)、イオニア式(アテナイのエレクティオン)
ヘレニスティック期の神殿 コリント式の登場(アテナイのオリュンピエイオン)
神殿建築の語彙はウィトルウィウスの『建築十書』を通じて後世に伝わっている(一部はラテン語化されて)
神殿の平面形式: In antis, Prostylos, Amphiprostylos, Peripteros, Pseudodipteros, Dipteros (露天式)
intercolumniation: Pycnostylos(3M), Systylos(4M), Diastylos(6M), Araeostylos, Eustylos(4.5M)
Stylobates 柱礎(base) 柱身(shaft) 柱頭(capital) Epistylon 中間帯 頂冠帯 Tympanon Acroterion
後世、柱上帯、中間帯、頂冠帯は architrave, frieze, cornice と呼ばれ、まとめて entablature と称する
その他: entasis, abax, echinos, triglyphos, metope, Caryatides
劇場(orchestra, theatron, skene から成る)、競技場(stadion)、体育場(gymnasion)
記念建築(ヘレニスティック期) 有力者の恵与指向 リュシクラテス記念堂=競技に優勝した合唱隊指揮者
都市建築 アゴラ(広場)、ストア(柱廊) グリッド・プラン(ミレトス) 景観重視(プリエネ、ペルガモン)